

重要

令和2年度 日本学生支援機構 貸与奨学金 「継続手続き」について

学生支援チーム奨学金担当

Tel : 059-231-9061

E-mail : menjyosyogaku@ab.mie-u.ac.jp

1. 10月末現在で休学中・停止中の人を除き、給付奨学金との併給調整により第一種奨学金の振込が「0円」となっている人も含め**全員**手続きが必要です。4月以降の継続貸与を希望しない人も、継続願で「継続を希望しない」ことを入力していただきます。

入力期間 令和2年12月15日(火)8:00~令和3年1月24日(日)(厳守!)

(ただし、12月29日~1月3日は入力できません。)

2. お知らせ

継続願の提出(入力)前に、スカラネット・パーソナルから「貸与額通知書」を印刷して、人的保証の方は連帯保証人・保証人に、未成年の方は親権者にもその内容を確認してもらってください。

貸与奨学金は貸与が終わった後に日本学生支援機構へ返還する必要がありますので、将来、返還が困難になることのないよう、貸与月額が適切な金額であるかよく確認してください。

スカラネット・パーソナルに**未登録**の人は新規登録をしてください。登録には、奨学生番号と振込口座番号が必要です。日本学生支援機構ホームページ → [奨学金](#) → [スカラネット・パーソナル](#) をクリック。(直接 URL を入力する場合は、<https://scholar-ps.sas.jasso.go.jp/>)

3. 提出の手順について

大学HPに『日本学生支援機構 貸与奨学金「奨学金継続願」の提出手続きについて』を掲載していますので、必ずよく読んでから手続きを始めてください。大学学部用 と大学院用 の二種類があります。

- ① 学部学生は生計を維持している人(父と母)の収入に関する証明書を準備する。(大学院生は不要)
- ② 2~5ページにある『**奨学金継続願** 入力準備用紙』を記入してください。(下記の「5. よくある質問」の内容に注意して記入をしてください。また、このお知らせの3~4ページに「本人の収入及び支出 計算表」がありますので収支の集計に利用してください。)
- ③ 自分で登録したユーザID・パスワードを使用してスカラネット・パーソナルにログインする。
- ④ 「奨学金継続願提出」タブをクリックする。
- ⑤ 「貸与奨学生番号(6又は8で始まる番号)」を選択し、下書きどおりに入力していく。
(5から始まる給付奨学生番号については、給付奨学金の手続き案内に従って手続きしてください。)
- ⑥ 最後に画面に表示される受付番号(16桁)を入力準備用紙にメモする。

4. 入力における注意点

- スカラネット・パーソナルのログインにおいて、登録済みのユーザID・パスワードを忘れた場合は、再度登録してください。([ログイン・新規登録](#) → [ユーザID・パスワードを忘れた場合](#))
「奨学生番号」欄は新規登録した際に入力した番号を入力してください。複数の奨学生番号を持っており、送信後にエラーメッセージが表示される場合は、他の奨学生番号で試してみてください。なお、その奨学生番号が貸与終了済の場合、「口座番号」欄は振替口座(リレー口座)の番号を入力する必要があります。
- スカラネット・パーソナルの新規登録において、エラーとなる場合は、「スカラネットPS確認情報入力」の画面の左下【確認情報入力の項目について不確かな場合は [こちら](#)】で確認してください。
- 第一種奨学金と第二種奨学金を併用している人は、奨学生番号ごとに継続願の提出(入力)が必要です。両方とも継続を希望する場合には、必ず同じ内容で入力をしてください。
- 入力終了後に内容を訂正したい場合は、奨学金窓口へ訂正を願い出てください。

5. よくある質問

Q1. 生計を維持している人の所得金額欄の入力方法がよくわかりません。

(大学院生は、生計維持者の所得金額の入力は不要です!)

本人の収入及び支出 計算表

『奨学金継続願』入力準備用紙の3～4ページの注意事項等を参照し、計算表で集計をしてください。
 (三重大学 HP に計算表のエクセルファイルがあります。計算式が入っているのでご利用ください。
 「学部・自宅」「学部・自宅外」「大学院・自宅」「大学院・自宅外」別にシートがあります。)
 三重大学 HP → 在学生 → 福利厚生 → 奨学金について → 「継続手続き収入支出計算表」

手順

- ① 収入と支出それぞれの項目に月額あるいは年額を記入。支出では、自宅通学と自宅外通学で支出の種類が異なり表が別になっています。月額で記入したのものについては12ヶ月分をかけて年額を計算する。(1年生と今年度編入生については8ヶ月分をかけて年額とする。)
合計金額は1万円未満を切り捨て、種類毎に「万円」単位とする。
- ② 「収入合計★」－「支出合計☆」を計算する。差額がマイナス、あるいは学部生は36万円以上、大学院生は45万円以上の場合は、各項目の金額に間違いがないかをよく確認する。
- ③ 赤枠内の金額を入力準備用紙3～4ページの金額欄に転記します。

月額×12 (1年生は×8) 単位を「万円」に変換

あなたの収入

	月額 (単位:円)	年額 (単位:円)	年額 (単位:万円) 1万円未満切り捨て
家庭からの給付	円	円	万円
日本学生支援機構の奨学金 (スカラ PS では自動表示)	円	円	万円
日本学生支援機構以外 の奨学金	円	円	万円
アルバイト等収入	円	円	万円
その他	円	円	万円
収入合計★			万円

(大学院生は収入の種類及び並び順が異なり、また「配偶者の定職収入」欄があるため、入力準備用紙へ書き写す時は注意！)

月額×12 (1年生は×8) 単位を「万円」に変換

あなたの支出(自宅通学・父母と同居している)

	費用項目	月額	年額	年額合計 (単位:円)	年額 (単位:万円) 1万円未満切り捨て
学費	授業料	授業料は年間 535,800円	円	円	万円
	その他		円		
修学費	教科書・図書費・文具購入費	円	円	円	万円
	実習旅行・ゼミ合宿	円	円		
	部活・サークル費用	円	円		
	通学費・定期代	円	円		
	駐輪場代	円	円		
食費	外食費	円	円	円	万円
通信費	携帯電話代等	円	円	円	万円
その他	1年生と今年度 編入生は入学料 282,000円	入学料	円	円	万円
		医療費	円		
		娯楽費	円		
		理容美容代	円		
		自動車学校講習費	円		
	その他講習費	円	円		
	その他支出	円	円		
機関保証料	スカラ PS では自動表示	円	円	円	万円
支出合計☆					万円

月額×12 (1年生は×8)

単位を「万円」に変換

あなたの支出(自宅外通学・父母と同居していない)

	費用項目	月額	年額	年額合計 (単位:円)	年額(単位:万円) 1万円未満切り捨て
学費	授業料	授業料は年間 535,800円		円	万円
	その他		円	円	
修学費	教科書・図書費・文具購入費	円	円	円	万円
	実習旅行・ゼミ合宿	円	円		
	部活・サークル費用	円	円		
	通学費・定期代	円	円		
	駐輪場代	円	円		
家賃	家賃・共益費等	円	円	円	万円
食費	下宿等での食費・材料費	円	円	円	万円
	外食費	円	円		
光熱水料・ 通信費	電気代	円	円	円	万円
	ガス代	円	円		
	水道代	円	円		
	携帯電話代等	円	円		
	インターネット費用	円	円		
その他	1年生と今年度 編入生は入学料 282,000円	入学料	円	円	万円
		医療費	円		
		娯楽費	円		
		理容美容代	円		
		自動車学校講習費	円		
		その他講習費	円		
		帰省のための交通費	円		
	その他支出	円			
機関保証料	スカラPSでは自動表示	円	円	円	万円
支出合計☆					万円

「収入合計★」-「支出合計☆」= **万円**

差額が **36万円以上** (大学院生は **45万円以上**) となる場合は、奨学金を借り過ぎていると機構が判断し、貸与月額を減額あるいは奨学金を辞退するよう面接・指導を受けていただくことになります。

【計算例】(例: 大学3年下宿生 授業料は奨学金で支払い、家賃・光熱水料通信費は家庭支払い、仕送り月3万円)

あなたの収入

1) 家庭からの給付	108	家賃48万 光熱水料通信費24万 仕送り3万×12月
2) 日本学生支援機構奨学金	60	自動表示 (例)月5万×12月
3) 機構以外奨学金	0	
4) アルバイト等収入	30	月平均2.5万×12月
5) その他	0	
収入合計	198	

あなたの支出

1) 学費	53	
2) 修学費	10	教科書代2万 ゼミ合宿2万 サークル活動費0.5万×12月
3) 家賃	48	4万×12月
4) 食費	40	1日1,000円×365日+時々外食
5) 光熱水料通信費	24	電気ガス水道合計1万×12月 スマホ代0.8万×12月 インターネット代0.2万×12月
6) その他	21	娯楽費1万×12月 理美容代0.4万×5回 医療費年1万 帰省2万×3回
7) 機関保証料	0	自動表示
支出合計	196	

この例の場合 収入198万円 - 支出196万円 = 差額2万円